

2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月31日

上場会社名 株式会社 日清製粉グループ本社 上場取引所 東
 コード番号 2002 URL <https://www.nisshin.com>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 見目 信樹
 問合せ先責任者 (役職名) 総務本部広報部長 (氏名) 町田 英樹 TEL 03-5282-6650
 四半期報告書提出予定日 2019年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	429,472	6.7	22,681	3.7	27,126	4.3	18,117	0.2
2018年3月期第3四半期	402,550	△1.0	21,881	11.4	26,003	9.6	18,087	14.9

（注）包括利益 2019年3月期第3四半期 18,818百万円（△34.9%） 2018年3月期第3四半期 28,912百万円（99.3%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	61.00	60.94
2018年3月期第3四半期	60.48	60.42

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	598,614	420,545	67.8
2018年3月期	591,512	413,794	67.5

（参考）自己資本 2019年3月期第3四半期 405,930百万円 2018年3月期 399,278百万円

（注）「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	14.00	—	15.00	29.00
2019年3月期	—	16.00	—		
2019年3月期（予想）				16.00	32.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	565,000	4.6	27,500	1.1	32,000	0.6	22,000	3.1	74.09

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、【添付資料】P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	304,357,891株	2018年3月期	304,357,891株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	7,285,071株	2018年3月期	7,426,065株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	296,989,462株	2018年3月期3Q	299,075,168株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2) 決算補足説明資料につきましては、当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[当第3四半期の概況]

当第3四半期連結累計期間につきましては、雇用・所得環境の改善等により景気は緩やかに回復しましたが、一方で、米中貿易摩擦や英国のEU離脱を含む欧州経済への懸念、国内における消費者の節約志向や人手不足を背景として、景気は先行き不透明な状況が継続しました。

このような中、当社グループは、10年後、20年後の社会全体の構造変化を見据え、未来へのコンパス（羅針盤）として、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」を策定し、新たな取組みをスタートしました。また、その通過点である2020年度を最終年度とする中期経営計画「NNI-120 II」の達成に向けて、各事業において、製品・サービスの高付加価値化と販売拡大、コスト競争力強化と安全・安心の両立、成長分野への戦略投資等、スピード感を持って成長戦略の実行に取り組みました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、国内製粉事業における小麦粉価格改定の影響やエンジニアリング事業における大型工事の進捗等により、4,294億72百万円（前年同期比106.7%）となりました。利益面では、新規事業開発やデジタルマーケティング及び人材の獲得等に取り組み、将来の成長に向けた戦略的コストが増加する中、事業基盤を強化したカナダやタイにおける業務用小麦粉の出荷増、医薬品原薬の出荷増、エンジニアリング事業の順調な工事進捗に加え、全社を挙げてのコストダウン施策も寄与し、営業利益は226億81百万円（前年同期比103.7%）、経常利益は271億26百万円（前年同期比104.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は181億17百万円（前年同期比100.2%）と増益となりました。

(前年同期比較)

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	402,550	429,472	26,922	106.7%
営業利益	21,881	22,681	800	103.7%
経常利益	26,003	27,126	1,122	104.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	18,087	18,117	30	100.2%

[セグメント別営業概況]

①製粉事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	175,252	185,043	9,791	105.6%
営業利益	7,759	8,019	260	103.4%

製粉事業につきましては、新製品の上市等拡販を進めましたが、厳しい市場環境の中、国内業務用小麦粉の出荷は前年を若干下回りました。また、昨年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で3.5%、10月に同2.2%引き上げられたことを受け、それぞれ昨年6月及び12月に業務用小麦粉の価格改定を実施しました。

副製品であるふすまにつきましては、価格は堅調に推移しました。

海外事業につきましては、カナダのRogers Foods Ltd. チリワック工場の生産能力増強やタイのNisshin-STC Flour Milling Co., Ltd. の製粉工場買収による出荷増により、売上げは前年を上回りました。なお、米国のMiller Milling Company, LLC サギノー工場の生産能力約70%増強工事が完了し、本年1月に本格稼働を開始しました。

この結果、製粉事業の売上高は、国内事業における小麦粉価格改定の影響や海外事業におけるカナダやタイの戦略投資による出荷増等により、1,850億43百万円（前年同期比105.6%）となりました。営業利益は国内ふすま価格の堅調な推移や海外事業における業務用小麦粉の出荷増、戦略投資によるコストダウンにより、80億19百万円（前年同期比103.4%）となりました。

②食品事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	193,167	197,690	4,523	102.3%
営業利益	11,402	11,306	△95	99.2%

加工食品事業につきましては、消費者の節約志向が継続する中、家庭用では、生活者のニーズにこたえ、「簡便」「本格」に加え「健康」をキーワードとした高付加価値製品の開発を進めたほか、デジタルマーケティングと連動した青の洞窟イルミネーションイベントをはじめとする広告宣伝活動等、消費を喚起する施策を実施しました。業務用では、顧客ニーズに合わせた新製品の投入、新規顧客獲得に向けた提案活動を実施しました。また、輸入小麦の政府売渡価格改定に伴う業務用小麦粉の価格改定により、昨年7月及び本年1月に家庭用小麦粉及び業務用プレミックス等の価格改定を実施しました。海外では、プレミックス事業の出荷は順調に推移し、売上げは前年を上回りました。また、昨年6月にベトナムの業務用プレミックス市場の開拓を目的としてVietnam Nisshin Technomic Co., Ltd. を設立し、本年中の稼働予定で工場建設を進めております。中食・惣菜につきましては、幅広いカテゴリーの製品をフルラインアップで供給できる総合中食・惣菜事業を展開し、順調に拡大しております。これらにより、加工食品事業の売上げは、中食・惣菜及び業務用プレミックスの出荷拡大により前年を上回りました。

酵母・バイオ事業につきましては、製パン・外食市場向けのカレー等フィリング類の出荷増、診断薬原料等の出荷増により、売上げは前年を上回りました。なお、インドの子会社であるOriental Yeast India Pvt. Ltd. では、2020年夏頃の完工予定でイースト工場建設工事が順調に進捗しています。

健康食品事業につきましては、医薬品原薬及び消費者向け製品の出荷増により、売上げは前年を上回りました。

この結果、食品事業の売上高は、加工食品事業の中食・惣菜及び健康食品事業の出荷増等により、1,976億90百万円（前年同期比102.3%）となりました。営業利益は、これらの増収効果があったものの、人件費や物流費の上昇に加え、広告宣伝費等の将来の成長に向けた戦略コストの増加により、113億6百万円（前年同期比99.2%）となりました。

③その他事業

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	前年同期差	前年同期比
売上高	34,131	46,738	12,607	136.9%
営業利益	2,539	3,177	638	125.1%

ペットフード事業につきましては、新製品の投入やキャンペーンの実施等拡販に努めましたが、市場環境が厳しく、売上げは前年を下回りました。

エンジニアリング事業につきましては、主力のプラントエンジニアリングにおける大型工事が順調に進捗し、売上げは前年を上回りました。

メッシュクロス事業につきましては、スクリーン印刷用資材の出荷減により、売上げは前年を下回りました。

この結果、その他事業の売上高は、エンジニアリング事業におけるプラント工場の売上高増加の影響等により、467億38百万円（前年同期比136.9%）となり、これに伴い、営業利益は1億77百万円（前年同期比125.1%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位：百万円)

	2018年3月期	2018年12月期	比較
流動資産	260,751	266,666	5,914
固定資産	330,761	331,948	1,187
資産計	591,512	598,614	7,101
流動負債	114,189	114,125	△64
固定負債	63,528	63,943	414
負債計	177,718	178,068	350
純資産	413,794	420,545	6,750
負債・純資産計	591,512	598,614	7,101

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況及び分析は以下のとおりです。なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、遡及処理後の前年度末の数値で比較を行っております。

流動資産は2,666億66百万円で、現金及び預金と受取手形及び売掛金の増加等により、前年度末に比べ59億14百万円増加しました。固定資産は3,319億48百万円で、Miller Milling Company, LLC サギノー工場生産能力増強工事やOriental Yeast India Pvt. Ltd. イースト工場建設工事等の設備投資による有形固定資産の増加等により、前年度末に比べ11億87百万円増加しました。この結果、総資産は5,986億14百万円となり、前年度末に比べ71億1百万円増加しました。

また、流動負債は1,141億25百万円で、支払手形及び買掛金の減少、プラント工事に係る前受金の増加によるその他流動負債の増加等により、前年度末に比べ64百万円減少しました。固定負債は639億43百万円で、主に退職給付に係る負債の増加により、前年度末に比べ4億14百万円増加しました。この結果、負債は合計1,780億68百万円となり、前年度末に比べ3億50百万円増加しました。純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益による増加、配当金の支出による減少、その他の包括利益累計額の減少等により、前年度末に比べ67億50百万円増加し、4,205億45百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、2020年度を最終年度とする中期経営計画「NNI-120 II」を通過点に、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」の実現に向けてグループ一丸となって取り組んでまいります。

2019年3月期の業績見通しにつきましては、海外展開や中食・惣菜事業の拡大、高付加価値製品の開発・拡販等、事業戦略は順調に進捗しておりますが、第4四半期においてデジタルマーケティングを含めた広告宣伝活動や事業のモデルチェンジに向けた戦略コスト等の発生を見込んでおり、また、消費環境も依然として不透明な状況にあることを踏まえ、売上高は5,650億円（前期比104.6%）、営業利益は275億円（前期比101.1%）、経常利益は320億円（前期比100.6%）、親会社株主に帰属する当期純利益は220億円（前期比103.1%）と、当初予想を据え置いております。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向の基準を40%以上とし連続増配により配当の上積みを図る基本方針のもと、当初の予想どおり、中間配当は前期より2円増額の16円、年間配当は前期より3円増額の1株当たり32円を予定しております。これにより、実質的に6期連続の増配となる予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	91,635	98,487
受取手形及び売掛金	79,676	83,165
有価証券	7,857	7,374
たな卸資産	71,882	69,149
その他	9,892	8,743
貸倒引当金	△193	△254
流動資産合計	260,751	266,666
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	55,979	55,064
機械装置及び運搬具(純額)	38,700	36,827
土地	42,208	42,625
その他(純額)	14,054	19,019
有形固定資産合計	150,942	153,536
無形固定資産		
のれん	5,623	5,344
その他	6,786	5,624
無形固定資産合計	12,409	10,968
投資その他の資産		
投資有価証券	158,211	157,805
その他	9,322	9,758
貸倒引当金	△125	△120
投資その他の資産合計	167,408	167,443
固定資産合計	330,761	331,948
資産合計	591,512	598,614

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	58,492	54,581
短期借入金	7,892	9,592
未払法人税等	4,397	3,289
未払費用	19,291	16,624
その他	24,115	30,038
流動負債合計	114,189	114,125
固定負債		
長期借入金	7,194	7,176
繰延税金負債	27,184	27,410
修繕引当金	1,159	1,423
退職給付に係る負債	20,782	21,094
その他	7,207	6,837
固定負債合計	63,528	63,943
負債合計	177,718	178,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,117	17,117
資本剰余金	12,894	12,875
利益剰余金	306,415	315,553
自己株式	△11,695	△11,483
株主資本合計	324,732	334,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	69,467	68,726
繰延ヘッジ損益	△473	△178
為替換算調整勘定	6,352	4,054
退職給付に係る調整累計額	△800	△735
その他の包括利益累計額合計	74,546	71,867
新株予約権	189	178
非支配株主持分	14,327	14,436
純資産合計	413,794	420,545
負債純資産合計	591,512	598,614

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	402,550	429,472
売上原価	280,029	304,486
売上総利益	122,521	124,986
販売費及び一般管理費	100,640	102,305
営業利益	21,881	22,681
営業外収益		
受取利息	211	330
受取配当金	2,119	2,379
持分法による投資利益	1,701	1,294
その他	433	696
営業外収益合計	4,465	4,701
営業外費用		
支払利息	160	165
為替差損	22	—
株式交付費	54	3
その他	105	87
営業外費用合計	343	257
経常利益	26,003	27,126
特別利益		
固定資産売却益	936	172
投資有価証券売却益	5	39
特別利益合計	941	212
特別損失		
固定資産除却損	324	288
減損損失	—	42
特別損失合計	324	331
税金等調整前四半期純利益	26,620	27,006
法人税等	7,516	7,812
四半期純利益	19,103	19,194
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,016	1,077
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,087	18,117

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	19,103	19,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,527	△721
繰延ヘッジ損益	△136	326
為替換算調整勘定	△808	25
退職給付に係る調整額	110	36
持分法適用会社に対する持分相当額	115	△43
その他の包括利益合計	9,808	△376
四半期包括利益	28,912	18,818
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	27,610	18,046
非支配株主に係る四半期包括利益	1,301	771

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する適用指針」第15項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(追加情報)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、決算日が12月31日または1月31日の連結子会社については、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っておりましたが、連結財務諸表のより適正な開示を図るため、第1四半期連結会計期間より、一部の連結子会社（Miller Milling Company, LLC 他8社）については、連結決算日である3月31日に仮決算を行い連結する方法に変更しております。

なお、当該連結子会社の2018年1月1日または2018年2月1日から2018年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	製粉	食品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	175,252	193,167	368,419	34,131	402,550	—	402,550
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,045	315	12,360	1,647	14,007	△14,007	—
計	187,297	193,482	380,779	35,778	416,558	△14,007	402,550
セグメント利益	7,759	11,402	19,161	2,539	21,700	180	21,881

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロス、荷役・保管事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額(注3)
	製粉	食品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	185,043	197,690	382,734	46,738	429,472	—	429,472
セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,385	321	12,706	2,234	14,940	△14,940	—
計	197,429	198,011	395,440	48,972	444,413	△14,940	429,472
セグメント利益	8,019	11,306	19,325	3,177	22,503	178	22,681

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ペットフード、エンジニアリング、メッシュクロス、荷役・保管事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。